

評価項目		配置パターン		A案 (7.2m x 15mスパン)	B案 (14mスパン)	C案 (13.5mスパン)	
計画パターン	1階						
	基準階						
	柱位置						
景観性	市の象徴としての存在	一般的な棟構成	△	北側に正面性を持たせたファサード	○	全方位に正面性を持たせた象徴的なファサード	◎
環境性	風環境の配慮	敷地内への風の影響あり(風環境シミュレーションによる)	△	伊吹おろしを考慮した風に配慮(風環境シミュレーションによる)	◎	伊吹おろしを考慮した風に配慮(風環境シミュレーションによる)	◎
廊下システム	執務部・市民の利便性	見通し悪い(中廊下)、中廊下で閉鎖的	×	一望できる(回遊型廊下+吹抜け)、片廊下で開放感あり	○	一望できる(回遊型廊下+吹抜け)、片廊下で開放感あり	○
面積効率	コンパクト化	レントابل比 1階:約48% 基準階:約67%	△	レントابل比 1階:約58% 基準階:約74%	◎	レントابل比 1階:約58% 基準階:約73%	○
庁舎の機能性	① 執務環境の快適性(日照・通風)	東西軸、南北採光、風通し良	○	南北軸、自然採光がとりにくい	○	南北軸、東西採光、風通し良	○
	② 環境負荷の低減	西側はコアで負荷低減	○	西側の負荷対策が必要	△	西側の負荷対策が必要	△
	③ 来庁者・職員動線	長い	×	短い	○	短い	○
	④ 圧迫感	一般的な壁長	○	全方位から壁長を感じさせない棟構成	○	全方位から壁長を感じさせない棟構成	○
	⑤ 執務スペースとバックヤードのつながり	バックヤードを分散配置	△	平行に配置し職員動線や職員コミュニケーションが良	◎	バックヤードを集約配置	○
	将来的なレイアウト変更への対応性	将来的な改修(会議室の増設等)への自由度がある	○	将来的な改修(会議室の増設等)への自由度がある	○	将来的な改修(会議室の増設等)への自由度がある	○
構造計画	⑥ 構造架構の合理性	柱が多いが構造計画上のバランスはよい	○	構造計画上のバランスがよい	○	構造計画上、合理性が高い	○
コスト経済性	⑦ 建設工期の短縮	柱・杭の設置が多く、工期が長い	△	柱・杭の設置が最も少なく、工期が短い	○	柱・杭の設置が少なく、工期が短い	○
	⑧ 躯体コストの経済性	柱・杭・免震装置で増(各30本)	×	柱・杭・免震装置がやや減(各18本)	◎	外壁率・杭・免震装置で標準(各20本)	○
	⑨ 外壁率に対する経済性	6階建てにより外壁面積は最も多い	×	外壁率が低い	○	外壁率が低い	○
	⑩ 排煙に対する経済性	自然排煙主体	○	自然排煙主体	○	自然排煙主体	○